

デジタルカメラの用語(日本語)--- フォカス PDF转换可能丢失图片或格式，建议阅读原文

https://www.100test.com/kao_ti2020/207/2021_2022__E3_83_87_E3_82_B8_E3_82_BF_E3_c29_207242.htm) / 被写界深度(ひしゃかいしんど) / パンフォーカス --- レンズでピントがぴったり合う距は、密にいうと1点です。しかしその前後に、人の目でくっきり見えるがあります。それを合焦または被写界深度といいます。被写界深度はレンズの焦点距が短くなるほど(角になるほど)深く、また同じ焦点距のレンズでも、りをりむほど深くなります。パンフォーカスとは、被写界深度が手前から限にまでおよんで、写す画面のすべてにピントがっている状のことです。アウトフォーカス / ボケ味 --- ピントが合わずにぼけている状をアウトフォーカスといいます。ポートレートなどでは、背景をアウトフォーカスにしたほうが、人物が引き立って写るもの。このとき、アウトフォーカスのぼけ方がやわらかなグラデーションになっているときれいにえます。このぼけた部分のやわらかさをボケ味といい、レンズの性能をするひとつのポイントになっています。オートフォーカス (AF) / マニュアルフォーカス --- カメラが自動的にピントを合わせるがオートフォーカス (AF) です。これにし、自分でピントを合わせる方法をマニュアルフォーカスといいます。スポット AF --- 通常のオートフォーカス (AF) では、カメラを向けた被写体の状をいで判断してピントをめます。スポット AF は、画面の1所だけをんでピントを合わせる方法。通常のオートフォーカスで狙ったものにピントが合いにくいときなどに用います。AF (オートフォーカス) ロック --- 撮影

モードでシャッターボタンを半押しすると、ピントが合ってロックされます。その状がAF（オートフォーカス）ロック。そのままカメラの向きをえてもそのままのピントが保たれます。狙ったものにピントを合わせたままをえたいときなどに便利です。フォーカスブラケット --- カメラのAF（オートフォーカス）がピントを合わせた写真と共に、前後に微妙にピントをずらした方にピントが合う写真を自動的に撮影する能です。マクロ撮影で花を撮る合などに有です。マクロ撮影(さつえい) --- 近くのを撮りたいときに、切りえて使用するです。通常の撮影より写したいものにぐんと接近でき、大きく写しこめます。フラッシュ --- ごく短い光によって写したいものを照射する光装置。フラッシュモードでは、露出が正になるよう、自動的に光量が制御されます。スロシンクロ --- フラッシュモードのとき、シャッタスピードをくして、フラッシュの光が届かない背景なども写しこむ能。夕景や夜景を背景にしたポートレートなどに用います。シャッタスピードがくになりますので、三脚の使用をおすすめします。デイトライトシンクロ --- 明るい日中でも、人物のが影になっている合などに使いたい技。フラッシュを制光にして人物のにフラッシュを当てれば、逆光でもくっきりと写せます。赤目(あかめけいげん) --- フラッシュ撮影で人の目が赤く写る象をする能です。シャッターが切れる前にフラッシュが一度光します。光量整(はっこうりょうちょうせい) --- フラッシュ撮影での露出をオバまたはアングにする能。フラッシュ撮影の合は、りとシャッタスピードでなく、光量で露出を制御します。ホットシュー --- アクセサリの外部フラッシュを

取りつけます。接点があり、カメラとします。光学ファインダ --- 写るを像でることのできるです。えるはズムとしてわかります。手ぶれを防ぐためにカメラをしっかり保持したいときや、池の消耗を防ぎたいときや、明るい屋外で液晶モニタがづらいときには、液晶モニタでなく光学ファインダを用います。子ファインダ (E V F) --- EVFとはElectric View Finderの略。一般的な光学式ファインダとはなり、液晶モニタが接眼部の奥にけられています。CCDの画像そのままを表示するため、撮影する画像とのいが少なく、100%野の画像でピントの合い具合や背景ボケの子もできるのが特です。度整(しどちょうせい) --- 近やなどの人にも、光学ファインダの像がはっきりえるように整できます。

100Test 下载频道开通，各类考试题目直接下载。详细请访问
www.100test.com